

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	日常生活援助 技術論演習 II	1	30	1 年次	9 月	高木佳寿美 竹内佐代子
授業概要 日常生活を良好に整えるための援助および正常から逸脱した状態に応じた援助の基礎となる知識・技術を習得する						
到達目標 1.人間にとっての食の機能を理解し、それぞれに関わる援助技術について習得できる。 2.人間にとっての排泄の機能を理解し、それぞれに関わる援助技術について習得できる。						
使用教材 テキスト： ①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 ②看護がみえる① 基礎看護技術，2018：メディックメディア ③看護がみえる② 臨床看護技術，2018：メディックメディア 参考文献等 小山珠美著 口から食べる幸せをサポートする包括的スキル						
評価 筆記試験、学習課題、レポートの提出状況 技術試験：一時的導尿						
授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
2 時間・1 回	1. 食の意義 1)人間にとっての栄養 2)食事の意義 2. 消化吸収のメカニズム 3. 現代の食生活と健康問題 1)食生活の背景にひそむ健康問題					講義 演習（グループワーク）
2 時間・1 回	4. 栄養状態のアセスメント 1)全身状態・外観の観察 2)身体計測および BMI、体脂肪の算出 3)血液検査データ 4)栄養摂取とエネルギー消費量 5)血液検査データ 5. 食欲・食行動のアセスメント 6. 嚥下機能のアセスメント					講義
2 時間・1 回	7. 食事の援助 1)医療施設で提供される食事の種類と形態 2)食事介助の基本 3)対象に応じた援助 (1)食欲不振 (2)視覚障害 (3)片麻痺 (4)嚥下機能低下					講義

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	日常生活援助 技術論演習 II	1	30	1 年次	9 月	高木佳寿美 竹内佐代子
時間・回数	授業内容					方法
	8. 非経口的栄養法の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法					講義
4 時間・2 回	9. 食事介助の実際 【実技：自力で食事摂取ができない人の食事介助】					実技
4 時間・2 回	1. 人間にとっての排泄の意義とアセスメント 1) 排泄の意義とメカニズム 2) 排尿のアセスメント、排便のアセスメント 3) 排泄行動のアセスメント 4) 排泄援助の種類（自然排尿、自然排便の援助の種類）					講義
14 時間・7 回	2. 排泄援助の基本 1) 排泄行動の援助 (1) 床上排泄の援助（尿器・便器の介助、おむつ交換） 【実技：便器・尿器の援助】 2) 排尿困難な対象への援助、排便困難な対象への援助 (1) 導尿（一時的導尿、持続的導尿） 【実技：一時的導尿の援助】 (2) 浣腸(グリセリン浣腸)、摘便 【実技：グリセリン浣腸の実際】					講義 実技
1 時間・1 回	筆記試験					
1 時間・1 回	技術試験					
備考						
○授業計画 1 は、人間の基本的ニーズの視点から食の意義（生理的意義・心理的意義・社会的意義）を考える。						
○関連科目：解剖生理学、基礎看護技術論、観察技術論演習、栄養学、老年看護学援助論、在宅看護援助論・演習						